

2000（平成12）年度 事業報告書

（財）水島地域環境再生財団（みずしま財団）

1. 組織活動

（1）理事会

第1回（通常）理事会（4/29）では、1999年度事業報告書及び決算報告書を承認すると共に、通称を「みずしま財団」とすること、ロゴマークを公募すること、ニュースを季刊で発行すること、県への報告・登記の手続きを理事長に一任することなどを決めた。

第2回（臨時）理事会（8/12）では、2000年7月以降2年間の評議員を選出した。また、2000年度の事業計画を確認すると共に、2001年度に常勤職員を増員することを承認した。

第3回（臨時）理事会（11/23）では、上半期の活動を承認すると共に、2001年度に採用する研究員の選抜方法について決定した。また、財団運営に理事・監事、評議員の総意が生きるように、①組織・財務委員会 ②広報・編集委員会 ③研究・学習委員会 ④資料保存委員会の設置を決定した。

第4回（臨時）理事会（1/13）では、2001年度採用研究員を決定すると共に、育児休暇にともない一年間研究員の欠員が生じる事態を踏まえて補充採用者を決定した。また、就業規則を決定した。

第5回（通常）理事会（3/3）では、2001年度事業計画及び収支予算で議決した。また、2000年度事業決算見通しを了承すると共に、第3回理事会で決定した各委員会担当理事も決定した。

（2）評議員会

第1回評議員会を5月13日に開催し、理事・監事を選出した。また、1999年度事業報告書及び決算報告書についても承認した。

第2回評議員会は、2001年度事業計画及び収支予算を議決した。また2000年度事業決算見通しについても承認した。

2. 渉外活動

(1) 講師活動など

地元の県立倉敷古城池高校からの依頼で藤原研究員が講師として「市民参加型まちづくりにおける専門家の役割」と題してミニ講演を行った。(11/15)

(2) 国際協力・交流

・「日本の公害経験をアジアの環境教育に活かすための調査・交流事業（インド）」に参加(9/15～26、太田)

3. 各種事業

今年度は、実質的には、財団立ち上がり期の活動となったが、今年1月から藤原研究員が産休入りとなったため、財団活動の下地づくりが十分なされる状況には至らなかった。しかし、各分野からの協力や非常勤事務局員の力量を引き出すことによって各分野に於いて着実に成果をあげつつある。

(1) 環境再生活動の推進

①八間川をシンボルとした環境再生活動

第5回八間川調査(6/4)春調査。

第6回八間川調査(8/27)夏調査。

第7回八間川調査(11/11)秋調査。市の出前講座で「水の学習会」を行った。

第8回八間川調査(2/12/午前中)冬調査。午後からの、水島地域再生研究会にて「八間川懇談会」を開催した。

②水島地域環境再生の検討

・再生研究会(2/12)において、「八間川懇談会」と称して、地域の方や専門家を交えて、八間川を中心においた再生の検討会を懇談形式で行った。

③八間川報告書の作成

・11年度の調査結果(第1～4回)、12年度の1月に開催した地域住民への報告会(シンポジウム)の内容などを、考察、今後の課題などを加え、コンビナート地域環境改善報告書シリーズNo.4「八間川の再生をめざして」としてまとめ、7月に発行した。

(2) 公害被害に関わる体験や教訓を活かす活動

①公害裁判資料の保存・整理方策の検討

・北春日町の前倉敷市公害患者と家族の会事務所を、東栄町に移転とともに公害関係の資料館として仮設。財団の資料保存委員会や、あおぞら財団の相当機関の方策・意見などを参考に、今後の資料整理を進めていく。

②地域の公害体験“語り部”活動

<記録映画の製作>

- ・記録映画「水島に生きる」を製作し普及（販売、寄贈など）させることで、全国に水島の公害の実態を伝え、学校の総合学習との連携などをはかった。
- ・同時に、13年度完成予定の記録映画と教材向けビデオの製作に着手。制作は「水島に生きる」と同じ創映社の白井久夫氏に依頼。撮影は3月に終了。

<その他>

- ・島根大学社会システム学科上園昌武講師、学生の水島視察（コンビナート：川鉄見学、水島市街地など）受け入れ（6/9、10）
- ③コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信
- ・韓国司法修習生（2名）の受け入れ。水島市街地、コンビナートなどを視察。公害患者らとの対談などを行った。（7/21）
- ④地球環境市民大学校への協力
- ・平成12年度地球環境市民大学校「環境市民活動のための環境アセスメント講座」をテーマに2001年2月3・4日広島県福山市にて開催。1日目は、環境省担当課長からのアセスメント法の概要説明や、市民側からのアセスへの取り組みなどの発表がされた。2日目はフィールドワークで、実際に参加者が福山の市街地に出てアセスメントを体験。結果を地図作成し、発表、交流することでよりアセスへの理解を深めた。

(3) 調査研究の推進

①コンビナート周辺的环境改善に関する調査研究

- ・（財）省エネルギーセンター助成事業として、「21世紀の水島地域の環境を考えよう」報告会・シンポジウム開催（11/23）、総合的な学習の時間を用いての水島中学校において樹木調査を行った。また、これらの活動について、環境改善報告書シリーズ No.5「樹木の二酸化炭素吸収量による温暖化防止の意識啓蒙活動」として報告書を作成した。

②瀬戸内の環境再生に関する調査研究

<海底ゴミの実態把握調査活動>

- ・環境事業団地球環境基金の助成事業として行ったもので、本年度は3年間の継続事業の初年度に当たる。本事業は、森瀧理事長、磯部理事、白井理事の主導で行われた。
- ・内容は、行政への聞き取り（7月17日岡山県庁水産課・11月17日海上保安部・2000年2月9日香川県庁水産課）、各漁協への聞き取り調査（8月2日日生漁協・8月30、31日真鍋島、白石島各漁協）、底曳網漁船による実態調査（9月15日、11月5日寄島沖・12月3日下津井沖）、追加助成事業による水中ロボットカメラ調査（2001年3月3日水島港内・下津井沖）などを行い、3月17日に1年間の成果をまとめた報告会を開催し、3月末には環境改善報告書シリーズ No6「平成12年度 海底ゴミ調査を通じた市民意識の啓発活動」として海底ゴミ調査に関する報告書を作成した。

③県や市への質問・提言・要望書などの提出

- ・2月13日に「提言『人・モノ・情報が行き交う快適生活県岡山』の実現をめざして」についての公開質問状を岡山県知事に提出。質問状に対する回答を3月15日に受け取った。
- ・2月29日、市の八間川整備計画に関して、今までの調査や懇談会の結果を踏まえた要望書を倉敷市長に提出。回答を3月19日に受け取った。(八間川をシンボルとした環境再生活動を参照)

(4) 広報・交流

①交流活動

- ・「第30回「環境と公害」教育研究全国集会水島大会」への協力(8/21~23)
- ・高梁川流域ネットワークへの参加(下流域での活動団体として会合などへの参加)

②広報活動

- ・財団機関紙「みずしま財団たより」創刊号の発行。(1月)
- ・環境善報告書シリーズNo.4(7月)、No.5(1月)、No.6(3月)を発行し、県下の公的機関や各学校、財団関係者などに寄贈。希望者に配布。
- ・完成した記録映画「水島に生きる」の広報、販売。県内図書館、関係機関への寄贈。
- ・インターネット…ホームページの整備、更新。情報発信などに活用。
- ・FMくらしきラジオ出演
- ・財団シンボルマーク決定、表彰式開催(12/13)